

漁況予報 いわし

第126号

2004年11~12月漁期
(2004年10月 日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における9月のマイワシ総漁獲量は、25トンで前年同期の4トンを上回る漁獲量となりましたが、このうち7割は12日に諸磯地区でのまとまった漁獲によるものでした。各定置網とも、中羽マイワシ(15~16cm)主体の魚種組成となりました。

佐島地区のまき網は、8月の盆休みから暫く漁がありませんでしたが、9月中旬から再開され、中旬は10~60トン/隻/日、下旬は同5~10トンの漁獲水準で、3統計で340トンの水揚げでした。単価も120~200円/kgを維持しました。また、今シーズン初めて東京湾でも漁場形成があり、鴨居地区のまき網でも同3~40トンの漁獲がありました。魚体は定置網よりもやや大きく16~18cmが主体でした。

10月に入ると漁獲水準は落ち、主要定置網で計20トンで、このうち8割は諸磯地区で19~20日に漁獲されたものでした。まき網は上旬に東京湾で漁獲があったものの、相模湾では散発的な漁模様となりました。

【かたくちいわし】

主要定置網における9月のカタクチイワシ総水揚げ量は、214トンで去年同期(423トン)の半分に留まりました。しかし、10月に入ると鎌倉・腰越地区でまとまった漁獲が継続したことで、全体で前年同期の4.5トンを大きく上回る200トン(速報値)の漁獲量となりました。魚体は2ヶ月とも10~11cm台の小型成魚が主体でした。

佐島地区のまき網は、マイワシに漁獲努力が向けられた9月中下旬を除き、断続的に餌イワシとして漁獲しました。

【しらす】

相変わらず厳しい漁模様が續く相模湾のシラス漁ですが、9月に入っても状況は変わらず、平塚を中心とした奥部で同100~200kg/統/日の漁獲が1週間ほど断続的にありましたが、湘南、三浦と東側になるほど漁模様は悪くなり、特に三浦半島地区では殆ど漁獲がありませんでした。10月はさらに悪くなり、奥部では皆無、湘南・三浦地区でも皆無に等しい漁模様で、やむなくカツオやサバ釣りに出漁する船もありました。

この記録的な不漁傾向は相模湾だけではなく、茨城県海面も同様な状況が継続しております。また、静岡県及び愛知県海面でも、ここまで酷くはないものの不漁傾向が継続しており、軒並み太平洋側海域のシラス漁は春から不漁傾向が継続しています。

現在、黒潮は14年ぶりに大蛇行型で推移しておりますが、これが太平洋側海域のシラス漁不漁にどのような形で影響を及ぼしているのか、解明していく必要があります。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、中羽イワシが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の水揚げ量は、約135トンと予測されます。

*縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び未成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約230トンと予測されます。

しらす

今漁期は、9~10月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

夏以降、相変わらず相模湾以西の海域におけるシラス漁は極めて良くないことから今期は多くは望めないでしょう。

今漁期の漁獲量は、カタクチシラス主体で約10トンと予測されます。

過去5年の11・12月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

